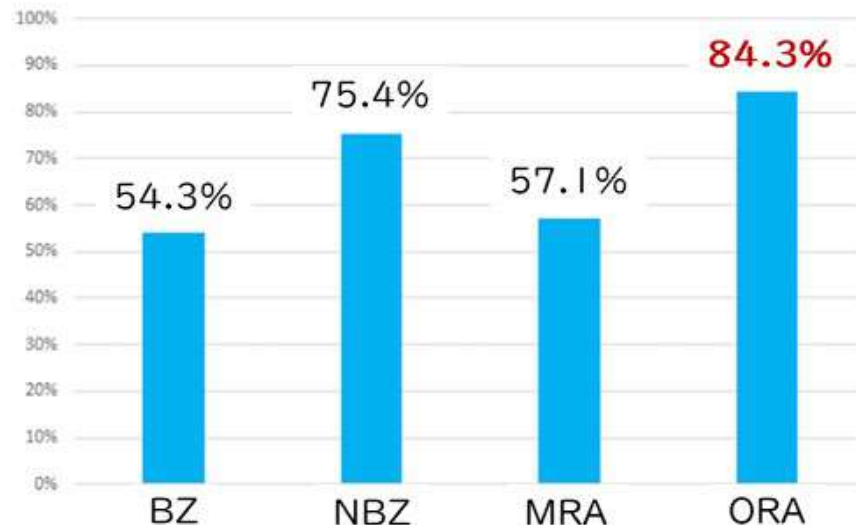




睡眠薬の処方に対する医師の態度：アンケート調査

- ベンゾジアゼピン受容体作動薬は安全性に関する懸念があるにもかかわらず、今なお世界中で広く処方されています。
- 近年、安全性の高い新規睡眠薬が次々と発売され、これらが医師の睡眠薬の処方行動に対して影響を及ぼしている可能性があります。これまで調査されていませんでした。
- そこで秋田大学精神科学講座の竹島正浩講師、三島和夫教授らの共同研究グループは、日本プライマリ・ケア連合学会、全日本病院協会、日本精神神経科診療所協会に所属している医師962名に対してアンケート調査を行い、頻回に処方する睡眠薬のクラスと、その理由について調査しました。
- **ORAを頻回に処方すると回答した医師は84.3%と最多で、**次いでNBZの75.4%、MRAの57.1%で、BZの54.3%でした。

図1. 頻回に処方されている睡眠薬のクラスの割合



BZ: ベンゾジアゼピン系睡眠薬, NBZ: 非ベンゾジアゼピン系睡眠薬,
MRA: メラトニン受容体作動薬, ORA: オレキシン受容体拮抗薬